

十勝地区農協組合長会の会議と十勝農協連の総会・理事会が18日午前、帯広市内の農協連ビルで開かれ、任期満了に伴い役員を改選した。組合長会の会長は有塚利宣氏(88)＝J A帯広かわにし＝、農協連の会長は山本勝博氏(78)＝J A中札内村＝をそれぞれ再任した。いずれも任期は3年。十勝の農業界は今期も有塚－山本体制を継続する。

組合長会の副会長には太田眞弘氏(68)＝J A新得町＝と吉田伸行氏(60)＝J A帯広大正＝、監事には若園則明氏(62)＝J Aさらべつ＝と高橋秀樹氏(65)＝J Aさつない＝を選任した。いずれも新任。

農協連の副会長は八木英光氏(65)＝J A十勝高島＝を新任した。

今期の役員改選をめぐるのは、1998年から組合長会の会長を務めてきた有塚氏が昨年11月、全役職を退任する意向を示し関心を呼んでいた。

有塚氏はその後、地元川西地区の農業者らの慰留を受けてJ A帯広かわにしの組合長に再任され、一転して組合長会の会長職も継続する見方が強まっていた。

有塚氏は「十勝農業の新しい発展のため、皆さんのご意見をいただきながら、一生懸命頑張りたい」と話した。

組合長会の人事案は、十勝地区農協連合会役員選考委員会(山本勝博委員長)が決定し、同日午前の組合長会で承認された。有塚氏は組合長会の会長として8期目、山本氏は農協連会長として5期目。

「先頭に立って」 選考委員長

十勝地区農協連合会役員選考委員会の山本勝博委員長は18日午前、報道陣の取材に応じた。主な内容は次の通り。

－組合長会の会長に有塚氏を再任した。

24 J Aを平等に選考する中で、国や道との人脈など、経験豊富という判断をさせていただいた。一致団結して、ホクレン会長(J A士幌町・篠原末治組合長)、J A道中央会副会長(J A十勝清水町・串田雅樹組合長)を支えていかななくてはならない。有塚氏に先頭に立って頑張ってもらおうという意見が出た。

－有塚氏に期待する点は。

組合長会の会長は8期目となる。この3年間を集大成として、若い組合長を指導し、育てていただきたい。



有塚 利宣 氏



山本 勝博 氏

【芽室】J Aめむろ(宇野克彦組合長、正組合員585戸)の通常総代会が17日、同J A本部事務所で開かれた。2019年度の農業粗生産額は前年度比6.1%増の312億円で、17年度に次ぐ2番目に高い記録となった。

4月中旬から5月下旬にかけて降雨が少ない状況が続いたため、一部出穂を迎えた小麦や豆類、スイートコーンの発芽に干ばつ被害が見られたが、耕種部門は9.6%増の205億円だった。畜産部門は0.9%増の107億円。

当期末処分余剰金は1億3,332万円。そのうち4,523万円を出資配当金とする。

今回は新型コロナウイルス感染対策として366人の総代のうち281人が書面議決。25人が出席した。